

〈朝倉農学大系〉第1巻『植物育種学』1刷正誤表_2024.12.11

ページ	行	誤	正
12	表2.1	<i>Arabiposis thaliana</i> (シロイヌナズナ)	<i>Arabidopsis thaliana</i> (シロイヌナズナ)
同	同	<i>Lycopersicon esculatum</i> (トマト)	<i>Solanum lycopersicum</i> (トマト)
同	同	セイヨウアブラナ	セイヨウナタネ
同	同	<i>Zea may</i> (トウモロコシ)	<i>Zea mays</i> (トウモロコシ)
同	同	<i>Hordium vulgare</i> (オオムギ)	<i>Hordeum vulgare</i> (オオムギ)
同	同	<i>Brachypodium</i> (カモジグサ)	<i>Brachypodium distachyon</i> (ミナトカモジグサ)
同	上から6-7行目	250キロベース (Kb)	250キロベース (kb)
同	下から5行目	140Mb	140kb
14	下から10行目	ゲノム解析する方法も考案され進められている	ゲノム解析する方法も考案されているので、麦類の育種にもゲノム解析の利用が進むと期待される
40	下から3行目	F ₁ 雑種の生育ステージ	F ₁ 雑種やその後代の生育ステージ
42	下から8行目	矢野昌弘	矢野昌裕
46	表3.2	突然変異の頻度 (10 ⁻⁴)	突然変異の頻度 (10 ⁻⁶)
52	図3.4	一粒系コムギ (<i>Triticum monococcum</i>)	ウラルツコムギ (<i>Triticum urartu</i>)
54	上から6行目	祖先型野生植物は <i>O. longistaminata</i> に由来する <i>O. barthii</i> とされている.	祖先型野生植物は <i>O. barthii</i> とされている.
55	下から10行目	<i>spntaneum</i>	<i>spontaneum</i>
59	下から6-5行目	イネでは <i>Sh1</i> , <i>Sh2</i> および <i>Sh3</i> の三つの脱粒性遺伝子が知られており、一つでも潜性 (劣性) になると脱粒しやすくなるが,	イネでは複数の顕性 (優性) の脱粒性遺伝子が知られているが,
同	下から4行目	<i>Btr2</i> は逆に二つの遺伝子のうち	<i>Btr2</i> は二つの遺伝子のうち
77	図4.1	差し替え (別掲)	
100	上から2,3,10行目	ヒトツブコムギ	ウラルツコムギ
同	下から10行目	ヒトツブコムギ	ウラルツコムギ
115	下から11行目	1/4の確立で	1/4の確率で
118	表5.4	ナタネ	セイヨウナタネ
120	下から5行目	ナタネ	セイヨウナタネ
122	表5.5	ナタネ	セイヨウナタネ